

船舶インシデント調査報告書

平成23年4月14日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 石川 敏 行

インシデント種類	運航不能
発生日時	平成22年8月28日（土） 17時30分ごろ
発生場所	能登半島北東部の石川県珠洲市沖 珠洲市鵜飼港東防波堤灯台から真方位099° 0.96海里（M）付近 （概位 北緯37° 23.9′ 東経137° 16.0′）
インシデント調査の経過	平成22年9月6日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報	モーターボート 富士丸、5トン未満 244-11916石川、個人所有 5.63m（Lr）×1.96m×0.87m、FRP ガソリン機関、44.13kW、平成1年7月 船長 男性 62歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成12年3月16日 免許証交付日 平成21年4月27日 （平成27年3月15日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	燃料油供給管先端に取り付けられている接続金具内部の固定ピン曲損
インシデントの経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、容量20ℓのプラスチック製燃料油（以下「FO」という。）タンク2個をそれぞれ容量一杯とし、うち1個のFOタンクと船外機を専用のFO供給管（以下「供給管」という。）で接続したのち、船外機を運転して係留地を出発し、珠洲市沖で釣りを開始した。</p> <p>船長は、平成22年8月28日17時20分ごろ、使用していたFOタンクの残量が少なくなったので、新しいFOタンクの供給管を船外機に接続しようとしたが接続することができず、17時30分ごろ、鵜飼港東防波堤灯台から真方位099° 0.96M付近で、船外機の運転ができなくなった。</p> <p>船長は、携帯電話を所持しておらず、連絡ができないまま西方に漂流し始めた。</p> <p>船長の家族は、船長が帰宅しないことから、本船の係留地に赴いたところ、船長の自家用車を見付け、22時15分ごろ警察に通報し、23時18分ごろ警察から最寄りの海上保安部に捜索の依頼連絡が入った。</p> <p>海上保安庁の巡視艇及びヘリコプター、水難救済会の救助船などが、捜索に当たっていたところ、翌29日01時41分ごろ、捜索していたヘリ</p>

	<p>コプターにより本船が発見された。</p> <p>本船は、ヘリコプターから連絡を受けて発見現場に急行した巡視艇にえい航され、03時30分ごろ、係留地に帰港した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力 1</p> <p>海象：平穏（湾内）</p>	
その他の事項	<p>供給管は、船外機を製造する会社が製造及び販売する純正部品で、ゴム製であった。</p> <p>帰港後の点検の結果、供給管の先端に取り付けられている接続金具の内部の固定ピンが曲損していることが判明した。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、珠洲市沖で魚釣り中、FOTANKを切り替えた際、供給管が船外機に接続できなかったことから、船外機の運転ができなくなったものと考えられる。</p> <p>本船は、供給管の先端に取り付けられている接続金具の内部の固定ピンが曲損し、船外機に接続できなかったものと考えられる。</p> <p>本船は、船長が、供給管を船外機に接続した際、接続金具が偏った状態で無理な力で押し込むなど、装着を適切に行わなかったことにより、固定ピンが曲損した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、珠洲市沖で魚釣り中、FOTANKを切り替える際、船長が供給管の船外機への接続を適切に行わなかったため、供給管先端の固定ピンが曲損し、供給管が船外機に接続できず、船外機の運転ができなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>	